

チャレンジ

旭川大学高等学校 ライセンスコースだより NO7 2014. 8.19

「夢の実現」の準備を

就職試験解禁まで1カ月を切りました。勉強が好きでないのに社会に出たいと思っている人はいませんか。今は、就職しても成果主義の時代、長く勤めたからといって偉くなったり給料をたくさんもらえたりするわけじゃありません。会社に入っても資格を取ったりと勉強し続けなければなりません。勉強する気がなければ仕事は長く続きません。

就職受験報告書

就職活動に臨む3年生は、卒業生たちが残した「就職受験報告書」を見て下さい。受験先の筆記試験の具体的な内容に加え、面接で尋ねられたポイントや受験後の感想などが詳しく載っています。

また本校の強みが、選定や情報処理など全国商業高校協会(全商)主催の「全商検定」の取得者が多いことです。こうした成果を採用

側の企業も高く評価してくれます。

あいさつ

あいさつと身だしなみは、日常生活からきちんとできない人が、外に出てできるはずがありません。日頃から意識して本番を想定した日常生活を過ごしてほしいと思います。

就職活動は、自分の夢の実現を目指す強い気持ちが必要です。すべて自分のために、今後の生き方にかかわる大事なことです。



一日の計は朝にあり

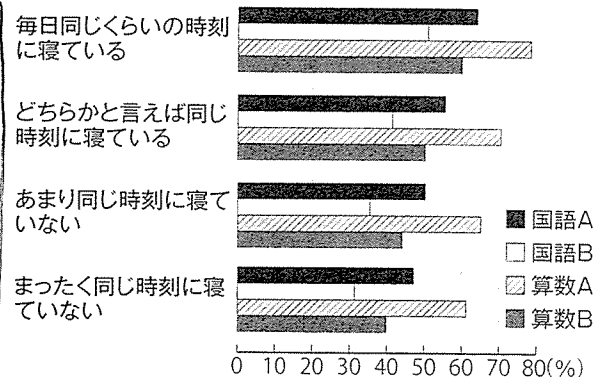
子どもめころ、親に「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」と教えられた。ものごとははじめが大切です。はじめにしっかりした計画を立てれば成功まちがいないです。

「早寝早起き」 学問に得?

2014.8.9 道新

国が小中高生調査へ

小学6年の毎日の就寝時刻と全国学力テスト平均正答率(2013年度)



文科省が5日に設置した有識者会議で配布した昨年の全国学力・学習状況調査(学力テスト)のデータによると、毎日同じ時間帯に寝る児童の平均正答率は、就寝時刻にばらつきのある児童に比べて高かった。例えば国語Bでは、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」児童の正答率50・9%に対し、「まったく同じ時刻に寝ていない」児童は31・4%。算数Bでは「同じくらいの時刻に寝ている」59・9%に対し、「寝ていない」39・8%だった。

有識者会議は、発達医療の専門家ら8人で構成。体内時計の乱れが、子供の心身や問題行動に与える影響を検証するほか、全国の小中高生約2万人を対象としたアンケートを9月にも実施。朝食の有無や夕食の時間、ゲームやスマートフォン(スマホ)の利用状況と、学校への遅刻や欠席状況との関連を聞き取る。また、体内時計の乱れを招く恐れがあるインターネットやスマホの利用法や、睡眠時間を記録するチェック表の導入などの対策を来年2月までにまとめ、保護者や子供たちにPRする。

文科省によると、15~19歳の平均睡眠時間は2011年時点で7時間42分。13~17歳の心身の発達に必要な睡眠時間は8時間15分~9時間15分とされ、1~1・5時間不足している。5日の会議では、体内時計に詳しい早稲田大の柴田重信教授が「夜遅くスマホの光を浴びると体内時計が遅れ、朝起きる時間が遅くなる」と指摘した。文科省は「早寝早起きがない良いのか、説得力のある根拠を示し、分かりやすく伝えたい」としている。